

平成三十一年度 群馬大学教育学部 推薦入試問題
国語専攻

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
2. 問題用紙は表紙を含め二枚、解答用紙は一枚、下書用紙は一枚です。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所があつた場合には申し出てください。
3. 受験番号と氏名は全ての解答用紙の所定の欄に必ず記入してください。
4. 解答は指定の解答用紙に記入してください。
5. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
6. 問題用紙と下書用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、後の問に答えなさい（なお、出題の都合により、一部表記等を改めた）。

今の高校歴史教科書は「知識」を詰め込み過ぎ、半分に減らそうという。高校、大学教員らがつくる「高大連携歴史教育研究会」が提起した教科書本文の用語精選案が話題だ。会はこの案に意見を募っている。

概念、制度、事件など用語は多様だが、坂本龍馬、吉田松陰、クレオパトラら歴史ドラマのスターたちの退場に関心は傾く。武田信玄、上杉謙信もさらば、となることに驚く人も少なくないようだ。

大きな歴史の流れ、変化に照らし、その役割や新たな評価などを反映した。だが、人物の棚卸しが目的ではない。高校の歴史科目を「受験のための暗記物」からどう脱却させるか、そこが肝心だ。

研究会の会長、油井大三郎・東京大学名誉教授は「暗記に費やす時間を、調べ、思考し、討論するような学習に回してほしい」と言う。

現在主な教科書に載る歴史用語は各三四〇〇から三八〇〇程度で、一九五〇年代に比べ三倍近くに。大学入試に出ると上乘せしてきたからだ。暗記が負担で歴史科目離れする生徒も多いという。

日本史で一八五六語、世界史で一八三五語に絞った今回の精選案は、この悪循環を断ち、これを入試で問う基本的な知識と想定する。教科書会社の協力が必要だが、何より、思考力を導き出す教員にかかるところが大きい。

大学入試。暗記知識の多寡でふるいにかけるなら「優劣」がはっきり出て、ミスも起きにくい。加えてもつと思考力を問うには相当に入念な準備と見極めの力がいる。

また実際に暗記知識量を減らすとなると、「学力低下」を懸念する声も上がる。なじみの歴史上の人物が教科書本文から消えれば「今学校はこんなことも教えていないのか」といぶかるだろう。暗記より難しい学習をしている、と説いても通用するかどうか。

かつて「ゆとり教育」をめぐる「円周率を三・一四ではなく三と子供に教える」などという誤解が独り歩きしたことを思い起こす。

こういう指摘もある。

ヒット作が多い映画監督が当たらなかつた若者向け時代劇（自作品中興行収入が最低だったという）についてぼやいた。「学校の教育が悪い。きちんと基本的な歴史を教えていないからセリフの意味や時代背景がわからない」

テレビ、映画で時代劇づくりの低迷がいわれるようになって久しい。要因はさまざまだろうが、監督の弁、八つ当たり半分としても、これも興味深い問題提起である。

（毎日新聞 二〇一八年二月六日）

問 本文を踏まえ、本文の最後にある「興味深い問題提起」について、あなたの考えを述べなさい。（四〇〇字以内）